週刊
勤勞タイムス
毎週日曜日發行
定價 一部一円五十錢 一ヶ年六十円
廣告 一行二十円 場所指定十圓增
福島縣平市大町八番地 編輯發行印刷人 木村安次
福島縣平市南町六七 印刷所 昭和印刷所

平市五丁目
久 釜屋商店
會計 諸橋元三郎
電話九番九九番九九九番

年頭の辭

社長 木村安次

新憲法の下、第一回國會を經て、新年を迎ふるに當り、一言祝辭を述べて、勤勞大衆の自覺を促がし、新日本創建の一途は一に懸かて、勤勞大衆の双肩にあるからである。新年は一段と高度の經濟危機を叫ばるゝも、新日本はそんなことにおちいつてはならぬからである。天佑敗戰たる所以である。何をか天祐敗戰といよ。敗けるは勝ちの天の攝理を自覺せねばならぬからである。天祐の履き違い、達勅の敗戰たるを以てゝある。排日問題を中心として戰ひ來たるに異論はなるかる可きも、眞に拜日人幾人やある時間勵行の一人者、果して如何。況んや朝三時神の秋なり朝の四時奉拜の秋祭る秋なりを知れる者幾人やある。靜かに反省せねばならぬ事がこゝにある。これ天祐の履き違いであつて、他を責むるの急なる所以ではなかつたか。人を憾み天を尤めても駄目なんだこゝだ善改を布かんとせば一惡を除くに如かずで大御心を奉戴するより他に途はあり得ないのである。これぞ義理とは神であり、人情とは人倫なのである。流石南原總長ではある。現在日本に不足せるは必ずしも食糧と住宅ではなく實に高度の知性と道義であると述べてゐるではないか。經濟に危機はなく勤勞に危機あることを看破せねばならぬからである。勤勞は人類の特徴であつて、勤勞によつて文化は向上し、勤勞によつて人生の本務は解消せられ、きん勞によつて人生の生存は意義つけられるからである。これ新日本の創建は一に懸かて以てきん勞大衆の双肩にある所以である。

昭和二十二年一月一日

人類最終戰と世界三大政黨論

第三次世界最終戰は日一日と切迫しつゝあるは事實であつて時の問題である、馬鹿を笑ふとも貧乏笑ふなで經濟で國は亡びない、天佑を知らぬ馬鹿共科學して國を誤まる、天の攝理かで政治は西洋に宗教は東洋である、政黨法案の行惱みも當然である、一は勞働黨（米）一は勞農黨（ソ）との對立だからである、そこで兵を捨てだ勤勞黨（日）の政治活躍する如何により人類最終戰の結末はつかんとする、運命戰に伏在する所の終戰の意義あることを知らねばならぬからである、これ世界三大黨たる所以である。

市當局一ヶ年の反省を促し

今年は平市發展に全力を盡すを要望す

常に日本の再建を願ふ吾人は今年もまた一切の努力を平和新日本建設といふところに打込むことが吾々の務めであると信ずるものである、この目的を達成するには前途に幾多の困難が豫想されるものであるが、而し如何なる苦難があらうとも之を克服し如何なる難局をも之を打開して國家の大理想とするところの再建日本に全力を盡すべきが吾々の務めではあるまいか、それには吾々市民は第一に平市を開拓して發展させる事が再建日本の大なる力の一つと信ずるものであります、かへり見れば市政は消防團問題に引續いて平第一校の不正工事でごた〳〵し何等平市發展のために促進もなく新年を迎へた事は市當局の恥るべきことと思ふのである今年こそはつまらぬ問題を捲き起さず、平和新日本建設のため平市發展のため全力を盡してもらいたいものだ市民は誰しも切望しているであらう、市政に何時もごた〳〵があつたなら發展どころか平市は消滅するであらう、市當局も一年間の過去を反省し今後市民と一体となり再建平市、日本再建に努力することを切望する（池浦清）

小澤代議士の特志

小澤代議士は客月三十二日平第二校に開催せる郡聯合青年團産業部研究發表會に臨席し農相以上の激勵訓辭をなし研究費として金壹萬圓を寄贈し、尚ほ同代議士には寸暇なきにも拘らず一月中には必ず江田驛と愛谷堰とは視察すると言はれてゐる。

民主日本三年を迎へて生活協同組合の設立を要望す ①

熊谷保雄

民主日本三年を迎へたが經濟と政治の不安定は依然として黑影を消さない、忠實な勤勞大衆の筍生活は特に底をつかんとして居る、徒らに名目賃金の値上げでは却つて物價の高騰を招くのみである利潤追及に吸々たる資本家の胞衣を脫かしめ中間搾取機關を紛碎し實質賃金の向上を側面から援護して政府に協力し黑影を除去しなければならない、然らざれば如何な內閣の實現するも明朗民主日本の再建は困難だと思ふ、茲に於て私は生活安定のための大衆運動として生活協同組合が各位に設立せらるゝ事を要望するものである、依つて斯界の權威本位田博士の說を錄して參考に資する。

終戰後文化國家の理想は確立し新憲法は制定された。それに基いてあらゆる方面に民主々義運動は發展してゐるにも拘らず國民の生活は日に日に苦しくなつてゐる、所謂基礎工事に追はれて國民が生活問題を忘れてゐたのではない、經濟問題を忘れるには餘りも國民經濟は窮迫して居る、生活問題を他處に文化と理想を論するには大衆の生活は餘にも切りつめられてゐる、文字通り飢餓線をさまよつてゐるだから、民主運動も單なる理念として捲き起されたのではなく、大衆の生活難の打開のために浸透して行つたのである。

勤勞哲學 ㊀

馬鹿を笑ふとも貧乏を笑ふなといふ言葉があるが世は餘りにも貧乏を苦にし、貧乏を笑ふ所にインチキが行はれ否な横行することの危險を見逃しではならぬからである、これ經濟危機の叫ばるゝ所以である、インチキの正敵は勤勞であつて、經濟に危機なく勤勞に危機があるからである、經濟は量であり勤勞は質である。兵を捨てた日本の國産みは勤勞の外に道はないのである、勤勞立國なのである。恐る可きは貧乏ではないのである。馬鹿なのである亡ぼさるしではないのである亡ぶるのである。自滅するのである。學問はいらぬといふものがある。これが馬鹿なのである。無知なのである。これが共産主義者なのである。恐るべきではないか、思想戰これを知らぬのである。氣がつかぬまでに思想戰に陷つた實は自己を知らぬ馬鹿者なのである恐る可きは馬鹿と狂人とは眞なるかな。（吉田庄太郎）

神谷分場

天下の問題となりし神谷分場は福島縣立實驗農場石城分場として國寶的研究實驗を認められ小野分場長に期待せらるゝ多大なるものがある

植田縣議視察

植田縣議は赤井村塩田街道並に江田詰所を一月四五頃視察する豫定である

議賀新年

參議員 星一

代議士 關內正一 齋藤晃 小澤專七郎 八百板正 榊原千代

縣會議員 馬目武之助 平市五丁目 蓮沼龍輔 平市田町 植田万次郎 石城郡四倉町 星初太郎 石城郡錦町

平市長 鈴木辰三郎

平市會議員
議長 金古政通
副議長 松本金市郎
酒井保 永野孝夫 柏原秀藏 金成國雅 江尻忠平 石山一治 關塲益一 齋藤角治 小松茂 蛭田利光 塩庄造 馬目武之助 高木喬 大野友春 鈴木政一 眞木桓 諸橋正次 佐藤源吉 花澤久一郎

吉田喜代治 木村淳 國井一美 柴田德二 新妻熊男 水竹伊之助 大塚駒太郎 長瀨源三郎

大久村農業會 常務理事 谷平敬春

祝發展 久ノ濱炭礦々業所 藤岡採炭礦業所 久共炭礦々業所

磐城製釘株式會社 富岡敏也 双葉郡久之濱町

廣野小學校長 水野谷憲太郎

久之濱小學校長 渡邊春雄

久之濱中學校長 遠藤隆章

久之濱町會議員 橋本宇三郎 北郷藤三郎

植田町會議員 北郷德助

縣會議員 久之濱町長 木田茂平

助役 新妻久五郎

收入役 新妻敬三郎

大久村長 谷平渡寧

助役 柳井金次

收入役 猪狩眞太郎

植田勿來地區 炭礦組合分離す

從來一本で進んで來た該組合は石炭の積込場と異にすると其の他共同利害關係上事業分離するか適當だの見解で今度分離を決議した、植田四坑、日新）黑田品川田人（田八、方治）東海、三和、安行、植田、天ノ川、下瀧、倉橋、勿來組合は三松、福旺廣部、多喜、川部、三福他に四ヶ所の斤先請負參加

植田小學校 父母と敎師の會 生る

父母と敎師が緊密に連絡を作り兒童敎育のために家庭の中學校、社會が力を合せ最善の學校環境の整備を圖り以て民主敎育の母体となり敎育の刷新を圖ることを目的として來年十二月二十日小學校に於て父母と敎師の會が誕生した

炭礦の事々

一、常磐炭礦の勞組諸君の生産意識昂揚運動はさすが日本の代表炭礦の勞組と云ふべし

一、大日本炭礦の技術研究會並に事故絶滅運動、年中安全週間の心構へ各れも從業員の自由的發案である期くてこそ民主日本の石炭報國の實際となる

一、田人興業万治炭礦の火藥庫は工費約三十萬を要し萬全の設備が成つた。兎角爆藥取扱を擔當にしツパイ元氣で働きたいと思つて居ります

（文責在記者）

經濟の混亂と政治の不安定

年頭寸言

松井政吉

經濟の混亂と政治の不安定の中に一千九百四十七年を送りました、今年こそは日本民主化の土臺を强固たるものにしたいと思ふ、氣持ちで一パイです、勞働者はもとより裸かであります。資本家も官僚も裸かになつて最大の技能と力を再建のためにのみ盡さねばならない、國が裸になつてゐるのに特定の個人だけが古い衣を着て其のポケットや着物の間に仕舞つて居る汚物は全部キレイに捨てゝ明るい民主化の土臺と方向を確實に規定したいと思つて居ります、特に過去と現在に生きる人達よりも現在と未來に生きねばならぬ、青年諸君の努力を切望して止みません、日本民族の將來を喜び樂しむものは未來に望みを持つ青年諸君にあります私は青年諸君と共に今年一パイ元氣で働きたいと思つて居ります

謹賀新年

敷島テント店 平市六丁目

織田齒科醫院 平市南町 織田豊太郎 電話四一六番

永山ミシン店 平市大町 永山眞彦 電話六〇六番

松村醫院 福島縣平市白銀町 電話一〇七番

石川洋服店 平市銀座通り 電話九五八番

永久經濟不變色服裝ノ自由 肖像畫揮毫 肖像畫無言ノ敎育家 菊水肖像畫院 平市五丁目 電989番

ベアリング專門の店 マデ半吋ヨリ二吋迄各種ベアリング 其の他一吋乙種ベアリング 平市南町六七警察署前通り 社業興平會照御乞

備付完全 機械は用の御物染 技術本位の 京屋染工場へ 平市南町大通り 電話四九六番

鼻緒は品豐富な當店！ 履物問屋 田口辰雄商店 平市本町五丁目三 電話(平)三七七番

事務用品 福助印帳簿發賣元 文房具 尾張屋商店 福島縣平市五丁目 電話九四七番

小名濱町 清水屋 小野義一 電話六番

女店員募集 喫茶 貸席 ホテイヤ 小名濱町下町 電話三二三番

平館 電話四六四番

皆樣の娛樂場 小名濱麻雀倶樂部 小名濱町上明神町

女店員募集致します 喫茶 貸席 ウラヤ 小名濱町上町二九

小名濱町沖見町一九 喫茶 貸席 大ノ 電話三七番

小名濱町濱町 喫茶 貸席 松葉 坂林慶三郎

縣社 飯野八幡神社 宮司 飯野盛男

平市驛前店 秋山時計店 主 秋山秀男 電話九八一番

平市三丁目 なかや洋服店 電話二〇三番

平市本通り 阿部唯次郎 電話四五番

平市新町四四 平戰災復興事務所

平市二丁目 菊屋樂器店

平市四丁目 平產物共同販賣組合 電話二一三七三四番

福島縣平市 富士興業株式會社 磐城工場

出產綿配給 平市田町銀座街 阿部康雄 藥劑師 阿部康雄 電話四四番

平市正月町六六 東橫製紙株式會社 平工場 電話七四九番

炭礦用諸機械製作並ニ修理 佐藤鐵工場 佐藤勇助 石城郡植田町

新星藥品工業株式會社 平市大町

新星硝子工業株式會社 平市佃町

平市中央通り マサコヤ洋品店 電話四六番

平市材木町十四 小野崎電氣鑄造株式會社

平地區古物商業 協同組合 理事長 片寄半三郎 組合員一同 事務所 平市南町七一 電話九一五番

平市驛前 磐城通運株式會社

平市新川町八 國際電球株式會社 取締役社長 國部義雄

平市仲町 大和田印刷所 大和田與兵衛 電話七二九番

平市五丁目 酒井無線電氣商會 酒井俊男 電話八三二番

有限會社 小名濱造船所 石城郡小名濱町

本店 平市銀座通り 支店 平市驛前通り 誠光堂時計店

家具百貨 丸三家具店 浦留四郎 石城郡植田町本町二七 電話一四三番 東白河近津村鶴崎一五 電話(棚倉)一三三ノ乙 石城郡植田佐糠碇田二二 電話(植田)二四三番

青果物食料品卸問屋 高野正男商店 平市南町十七 電話一〇〇八番

佐藤鐵工場 佐藤勇助 石城郡植田町

新年大特賣 正月十五日まで ラヂオ（百臺限り） 四球、五球、丸公を割つて開体申込に便宜の計る 一度御來店一見を乞ふ 販賣店 上原時計店 平驛前 後援海外引揚磐城連盟

民主日本三週年を迎へて勤勞大衆の健康と勞働組合の健實な發展を祝す 縣會議員 田畑金光

石城郡小名濱町高山三四 日本水素工業株式會社

植田魚介公市場 專務理事 赤津馬次郎

平市銀行組合

平市南町七番地 福島縣水產物製造業會 理事會長 平野直康

東海炭礦株式會社 專務 保母保 鑛業所長 村田順吾 顧問 松井政吉

大谷菊次郎 平市田町五七番地 電話二一八番

骨董、貴金屬商 中央會舘 片寄半三郎 電話九一五番

平市五丁目十二 平藥局 藥劑師 足立貢一

平市田町三六 電化燒食品組合 福島縣支部 電話二二三番

吳羽化學工業株式會社錦工場 工場長 長谷川幸七 次長 浦山武

喫茶 おでん 一平 小名濱町下町

平市鐵工々業會 會長 佐藤源吉

小名濱町 小名濱生活協同購買利用組合

田人興業株式會社 社長 金子長次郎 專務 佐藤勇助 所長 佐藤均二

大昭鑛業株式會社 社長 池口光之助 專務 中村源藏 所長 野上菊一

年新賀謹

ダンスロマンスと音樂と踊りと新しいステップ!! 主演 フレッド、アステア アレスリイ ジョーン、 踊る青空に 監督 エドワード、グリフィス

舘樂榮